

第1回開催結果

1 日時

令和元年12月16日(月) 15時00分～17時00分

2 場所

群馬県庁29階 295会議室

3 出席者

策定懇談会構成員14名

4 議題

- (1) 第1期群馬県総合戦略の実施状況について
- (2) 国の第2期まち・ひと・しごと総合戦略に向けた基本方針について
- (3) 県民アンケート等の結果について
- (4) 第2期群馬県版総合戦略(素案)について
 - ア 第2期地方人口ビジョン
 - イ 総合戦略【基本目標1】群馬で暮らし始めたいとなる

5 委員の主な意見

▼<第1期群馬県版総合戦略の実施状況について>

- ・「一人当たり県民所得」などの数値目標は景気状況を注視しながら設定する必要がある。
- ・第三次産業関係の評価項目を増やした方がよいのではないか。
- ・コンパクトな街づくりという観点から、「市街化区域内人口密度」以外の評価項目を追加してはどうか。
- ・「農業産出額」は市況状況や自然災害の影響を受けやすく、数値目標の設定が難しい。
- ・人口減少社会において、「他都道府県からの転入超過数」などの項目は目標設定が難しい。
- ・年代によって意見や希望が変わると思うので、分野横断的なKPIを設定してもらえると分かりやすい。
- ・外国人を社会の仲間としてどのように受け入れていくかという視点がないと

第1回開催結果

定着はしない。

・戦略8「仕事と生活の調和」では、子育てや少子化対策が主で、その先に働き続けられる職場をつくると考えられることから、女性が活躍できる職場づくりという視点での取組を加えてみてはどうか。

・情報発信では、インターネットを活用したPRの強化や、ニューイヤー駅伝の開催県であることをコンテンツとして加えてみてはどうか。

▼<県民アンケート等の結果について>

・「健康・医療分野」、「安全分野」の重要度が高い。超少子高齢化社会においては、健康・安全の取組強化が求められると想定されることから強化が必要。

・「暮らし・文化分野」の重要度・満足度が減少傾向となっていることから、群馬で暮らすことにあまり関心がない、または不満であると考えられる。さらに、公共交通機関の「不満」「やや不満」が半数を超えていることから、高齢者の視点で考えると、交通弱者対策を強化し、高齢者が暮らしやすい地域づくりが必要。

・Society5.0の実現によるAIやIoTなどの技術革新の活用については理解するが、一方で、デジタル革新による採用減で就職困難など、雇用不安という問題が新たに生じることが懸念される。雇用不安解消に向けて追記をしておかないと、人材は相変わらず首都圏に集中してしまう。

▼<第2期群馬県版総合戦略（素案）について>

・KPIに「観光入込客数」「宿泊者数」があるが、この指標をもって住む人を増やすというのは、指標が偏りすぎている。

・「4移住促進（5）「高発信力人材」との交流促進」について、移住者の体験や発信も入れてはどうか。

・「5移住者の定着支援」は、就農支援や新規就農者支援など、農業に偏っている。

・日本は国連加盟国中SDGsの達成度は15位であるが、世界の認知度平均が50%であるにもかかわらず、日本は16%しか認識していないのが課題。

・外国人により生産年齢人口が大幅に増えている群馬だからこそできる「群馬モデル」をこの5年で作るべき。

・外国人活躍とSDGsを掛け合わせた、群馬の産業現場の持続可能にしていく「県内定住定着プロジェクト」を提案したい。